

トランプ 新大統領

「保険規制」議論にも影響？

市況より将来見据えた規制を

このところ毎年「激動の年」と言っている気もするが、2016年も実にいろいろなことがあった。

年初にはソルベンシーIIがスタートしたが、まもなくBrexitの衝撃が世界を駆け巡った。

IASBのIFRS17号(保険契約)、IAISのICS(保険資本基準)1.0バージョンの策定も2017年の公表をめざし佳境を迎えているが、そんな中、米国ではトランプ新大統領が誕生した。

2016年もNYを拠



その機を捉え、APEC地域の当局、国際機関、金融業界関係者およびコンサルタントなどが集まり、インフラ投資、災害リスクファイナンス、金融アクセラレーターに関するパネル・ディスカッションが行われた。

点に米州、欧州、アジアにおける規制・会計に関する議論をフロアしてきた。訪れた国は20カ国(ベトナム、飛行マイルは約35万マイルに達し、地球を約14周(昨年は約10周)した計算になる。今回は10月12月に参加した主な国際会議を紹介しつつ、2016年の連載を締めくくりたい。

◆ ◆
まず、10月14日15日にAPEC財務大臣会合がペルーのリマで開催された。

◆ ◆
また、APEC財務大臣との意見交換会でもインフラ投資を担当した。日本からは木原財務副大臣が参加され、熊本震災の状況について報告があった。

◆ ◆
11月10日11日はパラグアイのアスンシオンにてIAIS年次大会に参加した。

◆ ◆
監督当局と業界関係者をめぐる300名以上が参加。官民の意見交換や、リスクベースの監督、金融安

その後、APEC財務大臣が発表した共同声明には、APFF(アジア太平洋金融フォーラム)を含むABAC(APECビジネス諮問委員会)の提言(本紙2016年10月21日号参照)を歓迎し、これらの分野における官民の連携をAPEC地域の当局に促すとの内容が盛り込まれた。

◆ ◆
定化と契約者保護、保険における技術革新、持続可能な成長における保険の貢献などの幅広いトピックに関するパネル・ディスカッションが行われた。

◆ ◆
ここでは「持続可能な成長および発展に向けた保険の利用」パネルに参加し、ジュネーブ協会事務局長、世界銀行アドバイザーらと共に、年金や長期投資の奨励、マイクロインシユアランス、災害リスクファイナンスングを通じて地域の発展における保険会社の貢献と、それを実現するための長期的視野に立った規制の重要性について論じた。

◆ ◆
EUと米国に続く第3の軸としてアジアが結束して意見発信を行っていることは、地域の多様性をふまえた国際基準の策

監督方針の転換見込まれる米国

次に向かったのはインドネシアのヨグヤカルタ。11月23日のASEAN保険サミットにてAPFFを代表し、政策提言に関するスピーチを行った。

◆ ◆
同サミットは、ASEAN保険カウンシル主催のカンファレンスで、主にASEAN加盟国の保険当局、保険業界、コンサルタ

昨年10〜12月の国際会議レポート

NAICで締めくくる

2016年の最後を締めくくったのは12月10日12日にマイアミで開催されたNAIC(全米保険監督官協会)の秋季大会である。

米国の保険監督当局は一般に短期的なボラティリティを伴う市場整合評価には懐疑的で、欧州のソルベンシーIIとは一線を画したグループ資本要件を検討しており、既存の

規制体系を尊重する国際基準を志向している(本紙2016年6月3日号、8月12日号参照)。

一方、財務会計基準審議会(FASB)は、長期保険契約の米国会計基準(GAAP)の改訂を検討しているが、その提案は保険負債の計算基礎率を毎期洗い替えるもので、従来のロックインによる原価法とは大きく異なる。

米国のソルベンシー規制は原価法に基づく法定会計(SAP)を基礎とするものの、FRB(連邦準備制度理事会)の活動にも変化がみられる可能性が高い。

◆ ◆
EUと米国に続く第3の軸としてアジアが結束して意見発信を行っていることは、地域の多様性をふまえた国際基準の策

古巣バーゼルでの国際会議に出席した後、ネットラジオIchiban Talkの収録がありました。海外で頑張る日本人のインタビュー番組です。

私がグローバルに活躍するようになってからのエピソードはメディアや講演でときどき紹介されていますが、今回は、関西に生まれ、鳥取の田舎で育った私がどのようにグローバルに活躍する夢をかなえていったかについて、カリフォルニア在住ながら、関西弁まるだしの愉快なパーソナリティーTatsumi Zeiderさんとの掛け合いで、一時間みっちり語りました。

お友達を招いてパンダのぬいぐるみを議長に国連ごっこ、地球儀を回して空想の世界旅行をした小学生時代。近鉄バッファローズと競馬を愛した中学生時代。クラスのマスクोटとなり、卒業スピーチで競馬実況をやり伝説となった高校時代。

人間万事、塞翁がペガサス

熱狂的阪神ファンだった京大の恩師、高坂正堯先生とのお宝話。家庭教師で勉強の苦手な女子高校生を教えて成果を出し、塾では名物講師に。

海外は大学3年のカリフォルニア短期留学から。国際化が必要で、国際化できる資源があって、国際化ができてない会社。そんな会社を求めて生命保険会社に入社。ところが配属先は国内部門。

映画「摩天楼はバラ色に」に憧れ、ニューヨーク勤務を目指して公募を受けるも、英語をしゃべる人はいっぱいいるからと不合格に。それなら別の言語をやろうと、ゼロ発から2年でフランス語をマスターし、企業派遣でフランスでMBAを取得。ところがパリ事務所が閉鎖。

結果的に憧れのニューヨークへ。そこで実践した映画のような日々。それがきっかけで小学校からの夢であった国際機関にスイスで勤務することに。

動物占いは、ひらめきと感性にしたがい、自由奔放に飛び回るペガサスだとか。人間万事、塞翁がペガサス。そんな半生の回顧録です。(番組の視聴は<http://ichibantalk.com/443130989.html/>)

保険の枠を超えた協力へ

11月14日16日にはリマに舞い戻り、APEC首脳会議に先駆けて開催されたABACミーティングに参加した。

◆ ◆
EUと米国に続く第3の軸としてアジアが結束して意見発信を行っていることは、地域の多様性をふまえた国際基準の策

新HOKEN グローバル事情 ④

日本生命
ニューヨーク事務所
大久保 亮